



商品投資アドバイスのポイント～前編

昨年夏に史上最高値 147.27 ドル/バレルをつけ話題となった後、30 ドル/バレル台まで急落していたNY原油価格。今年6月には再び 70 ドル/バレル台を回復し、商品市況へ再び注目が集まっています。そこで今回から2回に分けて、商品先物取引の特徴と顧問先へのアドバイスのポイントについて紹介いたします。

商品先物取引の特徴

商品先物取引には、主に以下6点のような特徴があります。

1. 取引所取引である

ご承知の通り、証券取引は、金融庁の管轄のもと金融商品取引法に基づいて各証券取引所において売買が行われます。売買の仲介を行うのが証券会社です。商品先物取引の場合には、経済産業省と農林水産省の二省管轄のもと商品取引所法に基づいて各商品取引所において売買が行われます。売買の仲介を行うのが商品取引員です。

「員」とありますが、これは「人」のことではありません。証券会社同様「会社」を指します。

2. 売りからも取引スタート可能

商品先物取引は、今後、価格が上昇すると思った時には「買い」から、価格が下落すると思った時には「売り」から取引をスタートさせることが可能です。

そもそも商品先物取引とは「ある一定の商品を一定数量、予め定められた価格で、将来の一定時期に受け渡す」契約のことをいいます。加えて、その将来の期限が来る前までであれば、その契約と反対の売買を行い、売値と買値の差額を受け渡しすることにより取引を終了させることができる、という特徴があります。(最終ページの

図表1参照)

つまり、商品先物取引とは「買う」契約をした場合は将来の期限までに代金を、「売る」契約をした場合は将来の期限までにモノを用意すればいい、という取引なのです。そのため、現時点ではモノも代金も必要ないのです。ただし、売り手、買い手ともに「証拠金」と呼ばれる少額の資金を預託する必要があります。

3. 決済期限がある

上述のような商品先物取引の特徴から、商品先物取引には決済期限があります。商品によって異なりますが、半年から1年程度です。

4. 資金効率がいい

商品先物取引は、総取引金額の3~10%程度の証拠金で取引が可能です。そのため、非常に資金効率が良い取引といえます。具体例でみてみましょう。

例1) 金の価格上昇を予想し 2,800 円/g で金ミニ先物を 100 g 買い、その後、3,300 円/g に上昇した時に転売。必要な証拠金は 14,000 円とする。

この時、利益は、 $(3,300 \text{ 円} - 2,800 \text{ 円}) \times 100 = 50,000 \text{ 円}$ 。

金の現物 100 g を使って同様の利益を期待する場合、最初に 28 万円余りの資金が必要となります。しかし、先物

取引であれば、当初必要な資金は14,000円。でも、利益は同じ5万円となります。

逆に損失となった場合はどうなるのでしょうか？

例2) 金の価格上昇を予想し2,800円/gで金ミニ先物を100g買い、その後、2,300円/gに下落した時に損失覚悟で転売。必要な証拠金は14,000円とする。

例1と全く逆のパターンです。損失は、(2,300円 - 2,800円) × 100 = -50,000円

しかし、最初に出した資金は14,000円。つまり、36,000円の資金不足となります。

証拠金は2009年6月現在。実際に取引する際には、委託手数料と委託手数料に係る消費税が必要です。

当初必要な資金は14,000円と少額であっても、動かしている資金は金100g分、およそ30万円前後の資金となります。それに伴う損益が発生するため、証拠金からみると、利益も大きくなる反面、損失も大きくなります。

例2のように、当初資金を上回る損失となることもあるため注意が必要です。そのため商品先物取引では、証拠金の半額を上回る含み損失が発生した場合、追加で含み損失分の資金を預託するというルールがあります。これを追証拠金(おいしょうこきん)といいます。

5. 株や国債などの有価証券を資金に使える

商品先物取引では有価証券を預託して資金とすることができます。たとえば株の一部上場銘柄であれば、時価の70%で評価されます。ただし、株券の電子化に伴い、現在は、現物株式の預託はできず、ほふりを利用して預託することになります。

6. 上場銘柄数が少ない

現在、国内には4商品取引所があり、延べ38商品が上場されています。

最近の商品業界

2009年5月7日から、東京工業品取引所で新システムが稼働。取引終了時間が従来の17時30分から23時(ゴム市場は19時)まで延長されたほか、各種ルールが変更されました。また、同所では、今後6か月以内をめどに取引時間を24時間化へ移行する予定です。

また、2007年7月に同所に金先物ミニ取引が上場されたのを皮切りに、各取引所でミニ化商品の上場が相次いでいます。

<著者プロフィール>

三次 理加 氏

CFPR認定者。95年、商品先物老舗のカネツ商事(株)に入社、08年9月退職。06年月から09年3月までの3年間、『夕刊フジ』にコラムを連載。06年9月から09年3月までBSジャパン(日経CNBC)「マーケットウィナーズ」に商品市況コメンテーターとして準ゲスト出演、現在はラジオNIKKEI第1「ファイナンシャルBOX」に商品市況コメンテーターとして出演するほか、『証券新報』にコラムを連載中。著書に『ネットで簡単!リカがやさしく教える商品先物 超入門』(柏書房)『入門 商品投資のすゝめ』(同盟出版サービス)がある。現在3冊目を執筆中。

今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局(株)日税ビジネスサービス 総合企画部]までご連絡ください。 TEL 03-3340-4488

図表1

価格上昇 を予測



1年後に、gあたり3,000円で
金1,000gを買う契約

1年後の期限



【決済方法:現受け】
1年後に、300万円を支払って、
金1,000gを受け取る。

【決済方法:差金決済】
半年後に、金をgあたり3,500円で転売し、
差額500円/g、1,000gで50万円を受け取る。

価格下落 を予測



1年後に、gあたり3,500円で
金1,000gを売る契約

1年後の期限



【決済方法:現渡し】
1年後に、金1,000gを渡して
代金350万円を受け取る。

【決済方法:差金決済】
半年後に、金をgあたり3,000円で買い戻し、
差額500円/g、1,000gで50万円を受け取る。

注:中東産原油、金先物ミニ取引などの現金決済先物取引、指数商品は現物の受け渡しができません。